

審査の結果の要旨

氏名 曲 曉艷

アタッチメントとメンタルヘルスとの関連については多くの研究が行われているものの、その詳細なメカニズムについて結論が出ているとは言えない。本論文は、中国と日本の若者において、アタッチメントとメンタルヘルスの関連、またそれに関わるパーソナリティ、ストレスコーピング、文化といった要因の関連について検討したものである。

本論文は 5 部構成となっている。第 1 部では、研究につながる問題意識や背景について述べられ、先行研究が概観された。アタッチメントとメンタルヘルスとの関係について、両者を媒介すると考えられるコーピングや自尊心についての知見がまとめられた。また、文化受容 *acculturation* に関する研究が概観され、文化の要因に着目する必要性が述べられた。

第 2 部では、アタッチメントとパーソナリティ障害傾向との関係が検討された。成人アタッチメント尺度 (AAS) の中国語版を作成し、次にパーソナリティ障害傾向を測定する尺度である PACL の中国におけるカットオフポイントについての検討がなされた。次に、中国の大学生におけるアタッチメントとパーソナリティ障害傾向との関係を調べた。パーソナリティ障害傾向がカットオフ以上であった人々は、それ以外の人々と比較してアタッチメントの質が悪い傾向が見られた。

第 3 部では、アタッチメントとメンタルヘルスとの関連を媒介する要因について検討された。まず、中国において、アタッチメント (AAS と ECR) と、自尊心、全般的なメンタルヘルス (GHQ) との関係を調べ、自尊心が両者の関係を媒介している可能性が示唆された。次に日本において、ストレスコーピングの関連を調べたが、メンタルヘルスに関する媒介効果は確認されず、QOL に対する媒介効果の存在が示唆された。

第 4 部では文化的な要因の検討が行われた。日本と中国の大学生において、アタッチメント、コーピング、メンタルヘルスの関係の比較を行ったところ、日本の大学生は中国と比べてメンタルヘルスが悪く、親密性回避が高かったが、見捨てられ不安は低かった。さらに、来日した中国人留学生のアタッチメント、メンタルヘルス、文化受容について調べると、滞在年数が長くなるとメンタルヘルスが悪化しており、また中国文化へのアイデンティティが高いとメンタルヘルスが良い傾向が見られた。

第 5 部では、研究の結論がまとめられた。アタッチメントとメンタルヘルスの関係は複雑な様態を見せていたが、アタッチメントにアプローチする場合には、親子関係への早期の介入と、コーピングという認知行動システムの修正が重要であると考えられた。

本論文は、比較的大きなサンプルによる定量的な研究手法を用いて、アタッチメント、パーソナリティ障害傾向、全般的なメンタルヘルス、QOL、ストレスコーピングの相互の関連について検討している。アタッチメントとパーソナリティ障害傾向との関連を確認したこと、アタッチメントとメンタルヘルスとの間を媒介する要因を検討したこと、また日本と中国の 2 カ国で調査を行い、アタッチメントとメンタルヘルスの関係に文化がどのように関わっているか、特に異文化適応という実際的な問題について考察されたことに意義が認められる。よって本論文は、博士 (教育学) の学位にふさわしいものと評価された。